

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0793230012		
法人名	有限会社T&T		
事業所名	認知症対応型グループホーム高原の家かわうち		
所在地	福島県双葉郡川内村下川内字田ノ入18-3		
自己評価作成日	平成27年10月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉ネットワーク
所在地	〒970-8232 福島県いわき市錦町大島2番地
訪問調査日	平成27年11月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>馴染みのある関係の中で「利用者本位」に家庭的な雰囲気与生活できるよう「異体同心」を理念に支援していきます。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>震災後数回の移動の中で、利用者・家族・職員が強い絆で結ばれており、安心できる場となっている。職員は馴染みの言葉で対応しており、川内村での穏やかな生活が継続できている。 管理者は、被災地からの通勤者が多いことから悪天候時は臨機応変に勤務時間を変更し、事故防止に努め働きやすい職場作りをしている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	目に入りやすい所に理念を貼り、意識して実践につなげられるよう努めています。	開設時に会社が作成した理念を変更する事なく継続している。常に意識し共有し事理念に基づいた実践に繋げ、日々のケアに努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	仮設の敷地内でイベントがあれば出来るだけ参加し、地域の方々、また他の自治体の方々と触れ合う機会を設けています。	隣接しているサポートセンター主催のイベントに参加し、阿波踊りやフラダンスを楽しみながら交流を深めている。敷地外の商店を利用し繋がりを広めている。毎年、ボランティアからゴーヤの苗が届き菜園に植え、育てる事も利用者の楽しみとなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の人の理解や支援方法を地域の方々に向けて活かすような所にまで至っていません。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回定期的に運営推進会議を行い、状況報告と意見交換を行っています。	地域の方や遠方の避難場所から参加を得て、意見・提案・助言をもらいサービス向上に活かしている。事業所選定のポイントや評価の仕方・介護度・疑問点の意見が聞かれ良い勉強の場となっている。家族の立場になり、気付かされた点の改善に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の際や地域包括のケアマネ訪問の際に情報交換や、入居相談、状況報告などを行っています。	遠方にある町役場とは、電話連絡し情報交換している。運営推進会議や認定調査の来所時に、空き状況や利用者の状況を報告し協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について正しく理解するとともに、身体拘束をしないケアに取り組む努力をしています。	利用者が自由に過ごすことができるよう、行動に気を配りながら自然体で見守っている。夜間は利用者の行動情報を共有し理解したうえで、やむをえない時は家族に説明し了解を得てベッド下にセンサーマットを設置し危険のないよう、即対応できるよう努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持つことは難しい現状だが、職員間で話し合う事で虐待防止に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度について学ぶ機会を設ける事が出来ていない状況だが、必要に応じて活用できるよう学ぶ機会を設けていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約の際に、契約書、重要事項を読みながら説明を行い、理解して頂けるよう努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に近況を報告するとともに、意見交換ができる機会を設けられるよう努めています。	日々の関わりの中で、意見や要望を把握するようにしている。家族には毎月広報誌で利用者の写真や近況報告している。電話で連絡した際に要望をもらう事もある。家族からオシャレを楽しんでいた頃の状態継続の希望があり、対応し利用者・家族から喜ばれている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	休憩時間やお昼休憩等の時間を利用しながら意見交換する機会を設けています。	管理者は日頃から職員の率直な意見や要望を聞く時間を設けており、運営に反映させている。玄関先の踊り場の腐蝕を報告、即修理した事で危険を回避できている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	冬季は道路状況を考慮し、退勤時間を早める対応や、職員の家庭環境に合わせた勤務時間で働けるよう努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修に関しては、希望を募り出来るだけ参加できるような体制をとっています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	実践者研修に参加により、他施設の取り組みを学んだりしているが、ネットワーク作りはまだまだとなっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	生活環境に慣れて頂きながら、要望などの話が出る環境づくりと信頼関係が築けるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に当たって家族の要望や意向を聞き、これまでの経過等を含め家族の話に耳を傾けながら関係づくりが出来るよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ここに入居するにあたって、困っている事、大変な事に焦点を当て、その時必要としているサービスが提供できるよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	地元の話で盛り上がり、作物を育てる時のアドバイスを聞いたりするような雰囲気があります。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	対応で難しい事があれば、家族に協力要請する事もあり、そのような関係作りに努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	隣の棟の方で地元と一緒に入居者であったり、昔から知っている方など馴染みの関係から触れ合う機会もあります。	家族や知人の面会時は、心置きなく話ができるよう温かく見守っている。仮設住宅内で朝夕の挨拶や散歩時に声を掛け合っ顔馴染みとなっている。地域の理美容室やケーキ屋さんとの交流もでき新しい関係作りができています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士会話が設けられるような環境作りと、入居者それぞれ会話ができるような話題をふったりしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された家族でも気軽に立ち寄って頂けるような環境づくりに努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者一人一人と話す機会を設け、本人の意向に沿った支援が出来るよう努めています。	利用者の会話や行動の中で希望や意向をくみ取り、出来る限り希望に添えるよう努めている。意思疎通の困難な利用者には、表情や仕草を受けとめて対応に結び付けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際、家族や本人から生活歴を聞き、その経過から支援ができるよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日の体調に合わせて、無理なく一日が過ごせるよう状態観察に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居にあたって、本人、家族の意向を聞き、ケアプランを作成。又、困っている事等を相談しながらケアプランを作成しています。	居室担当制にて、利用者一人ひとりの状況を細かく見守り職員全員で話し合い、本人や家族の意向を取り入れながら現状に沿ったより良いケアの提供に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子をケース記録に入力していくとともに、細かい申し送りはノートに記入し情報共有している。又、次のケアにつなげる意見交換等も行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ショートステイの指定を受け、家族の要望によってはショートステイの受け入れを行っています。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源として、美容院や魚屋、商店等を利用しています。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時、本人、家族の要望を重視しながらかかりつけ医を決めています。定期的な受診により、医師と相談しながら適切な医療が受けられるよう努めています。	希望に添って、かかりつけ医の受診継続の支援や協力医院の往診を定期的に受けている。結果は家族と職員で共有している。夜間の状態変化時は協力医に電話連絡し指示をもらい対応している。毎朝FAXで状態報告し、相談できる信頼関係ができています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常のケアの中で、気になる事を申し送るとともに、状態を見て受診を検討しています。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	看取りに近い状態の方の状況報告と家族を交えての話し合いから、入院となった際の協力が得られるよう関係づくりに努めています。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りに近い状態の方の状況報告と家族を交えての話し合いから、入院となった際の協力が得られるよう関係づくりに努めている。	重度化や終末期には、家族の意向を確認し、その都度相談しながら本人・家族が望む最良の選択ができるよう支援している。最終的には病院対応のケースが殆どだが、希望があれば看取りを行う体制は整えている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な初期対応の訓練を行うことは難しい状況。休憩時間に急変時の対応等の確認をし合う事があります。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間想定避難訓練を行うとともに、近隣住民にも協力して頂いています。	消防署の協力を得て、近隣の方にも参加して頂き避難訓練を行っている。避難場所や避難経路の確認もできている。仮設の住民は震災経験者でもあり、協力体制は十分に整っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人一人を尊重し、プライバシーに配慮した声かけを行っています。	一人ひとりの人格を尊重し、プライバシーに配慮した丁寧な対応を心掛けている。排泄介助時は他利用者が入ってこないよう気を配っている。呼名に関しては利用者の希望の呼び方で対応しその人らしく過ごすことができるよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、本人の思いが話せる環境づくりに努め、可能なものに関しては希望に沿って対応しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調に合わせ、無理なく生活を送って頂けるよう対応しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望の方がいれば美容院に送って行き、パーマや白髪染めなどが出来るよう対応をしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日会に入居者の友人が寿司を握ってくれたり、入居者の誕生日にはそれぞれ好きなものを提供。又、ホットプレート使用し目で楽しんで頂く機会を設けています。	利用者の好物の野菜を使った郷土料理や意見・希望を取り入れた献立作りをしている。菜園では自然農法的な野菜作りをしており、採りたての味を楽しんでいる。干し柿作りでは利用者の経験や知恵が活かされ、出来上がりを楽しみにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量を付け、水分摂取量が安定しない方は水分チェックや尿計測をして、状態観察に努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、洗面台へ誘導し、口腔ケアを行っています。一部の方には、見守りにてうがいや舌磨きなどの対応をしています。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	状態変化やトイレに座ることで具合が悪くなってしまう入居者もあり、自立にむけた支援は難しい状況。現状では、時間での誘導などで排泄の失敗を減らせるよう努めています。	高齢や病状により、立ち上がりが困難となっているが、利用者一人ひとりの排泄能力に合わせた細やかな対応を心掛けている。汗をかく利用者には日中は布パンツ対応し、少しでも気持ち良く過ごせるように支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳やヤクルトなどの乳製品を提供したり、毎日ラジオ体操やボール運動などを取り入れています。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人一人の希望に合わせて入浴する事は難しい現状にあります。	希望の入浴時間対応は難しいが、入浴順番を変更し、出来る限り利用者の希望に沿えるよう努めている。保温効果が得られる入浴剤でゆっくりと気持ち良く入浴できるよう支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の訴えにて昼寝以外にも、休息して頂いたり、一人一人の状況に応じて対応しています。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬説明書を見ながら追加された薬の把握と確認を行っています。又、申し送りノートに服薬の変更や追加を記入し、服薬に関する確認を行っています。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	豆のすじとりやフキむき等手伝って頂いたり、「○○食べたい」と言う声をもとに食事を提供しています。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節ごとに外出を企画。大洗水族館や大桑原つつじ園などに出かけ気分転換をしています。	季節毎の行事の他に、川内村の出かけ、手作りのお弁当を食べ、自分達が住んでいた場所に立ち寄り懐かしく過ごす事ができている。利用者の希望に沿いながら楽しい時間を多く持てるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	2000円～3000円程度であれば所持が可能であるが、希望に応じて使えるような機会は設けていません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば電話対応を行っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールには季節ごとに入居者と作成したものを壁に貼っています。一緒に制作する事で季節感を味わって頂く機会を設けています。	壁には季節を感じさせる手作りの作品が飾られ、落ち着いた雰囲気を作られている。仮設事業所の設備の中で、加湿器や空気清浄機を設置し健康管理に努め、温度調節をこま目に行い快適に過ごせる環境作りをしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仮設の為、スペースが限られており、居室かホールのどちらかで好きなように過ごして頂いている。又気分転換を兼ねて席替えを行っています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている。 (グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている。	家族の写真や、家族手作りのメッセージボード等を居室の壁に貼り、居心地良く過ごせるよう努めています。	使い慣れた馴染みの物が持ち込まれており、利用者の好みや習慣が感じられる部屋となっている。入口には、どこからでも見えるクッション素材の大きな名札や手作りの可愛い名前プレートが取り付けられてあり、利用者が迷わず自室に戻れるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全な環境作りとして、転倒防止の為、居室にセンサーマット、椅子や車椅子から立ち上がった時に鳴るコールマットなどを使用する事で転倒防止に努めています。		